

# みどりの東北

Midori no Tohoku

vol. 92  
東北森林管理局



鳥海山の麓にある名瀑「一ノ滝」(関連記事は7P)

## contents

### 「国有林モニター現地見学会を開催」

—— 特集 | 企画調整室

### 「『国際森林年』記念植樹活動を実施～秋晴れの中ボランティア参加者が広葉樹を植樹～」

—— 美しい森林づくり | 山形森林管理署

### 「獅子ヶ鼻湿原の神秘」

—— 我が署の名所 | 由利森林管理署



2011・国際森林年



みどりの東北



国有林モニター  
現地見学会を開催

企画調整室

林野庁では、国民の意見を反映した国民のための森林づくりを進めるために、国有林モニター制度を設けており、当局においても福島県を除く東北5県にお住まいの35名の方に国有林モニターとして、会議やアンケートなどを通じ、ご意見をお伺いしています。

甚大な被害を受けた宮城県栗原市において、国有林モニター現地研修会を実施しました。

午前中は、飯塚宮城北部森林管理署長による管内概要の説明の後、今年度も復旧工事を実施中の箇所や完成した治山工事の現場で、川浪宮城山地災害復旧対策室長による被害状況や工事概況の説明があり、モニターの方は熱心に聞き入っておられました。



川浪宮城山地災害復旧対策室長による説明  
(放森上流治山工事現場にて)

午後からは、ハイルザーム栗駒内にて、栗原市が作成した災害発生時の状況や復旧・復興に向けた各機関の取組等が収録されている「災害の記録」のDVDを鑑賞していただき、モニターの方も真剣に被災当時の様子をご覧になり、被害がいかに大きかったか、また地震後の取組がいかに大変でかつ重要であったかご理解いただきました。

こうした取組の一環として、10月28日(金)に11名のモニターの皆様にご参加いただき、平成20年6月に発生した岩手・宮城内陸地震により

その後、民有林内において、宮城県

知事からの要請により事業を開始し、現在も実行中である民有林直轄治



飯塚宮城北部森林管理署長による説明  
(冷沢・御沢治山工事現場にて)

山事業の現場の見学をしていただき、規模が大きい工事や技術的に難しい工事になる場合は、国有林以外の場所でも、林野庁が代行して治山事業を実施することを知っていただきました。

最後に、国有林内の平成21年度に完成したヒアヒクラ沢の現場において、昨年度から植樹活動をしている状況等の説明を受けた後、実際に、

モニターの方にも被災地の復旧・復興を願って植樹活動を行っていただきました。

今年は、3月11日の東日本大震災、また、ゲリラ豪雨や台風など、日本各地で自然災害が多発しており、モニターの方の治山事業に対する関心も高く、普段立ち入れない工事現場の見学もあり、熱心に耳を傾けていただき、ご質問やご意見等も多数いただき、有意義な一日となりました。



植樹後の集合写真  
(ヒアヒクラ沢治山工事現場にて)

## 復興のシンボル 奇跡の一本松を次世代へ

～林木遺伝子銀行110番による海岸林再生の取組～

森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場

笠井史宏 千葉信隆 春原武志

**東** 日本大震災の津波により、東北地方の太平洋岸の海岸林は、壊滅的な被害を受けたことから、東北育種場では、いま何をすべきかの検討を進めた結果、育種技術を活用した震災復興支援を行うこととしました。

ここでは、津波により消滅の危機に瀕した奇跡の一本松について、林木遺伝子銀行110番を活用して、後継樹を育成することで、貴重な林木遺伝資源の保存と海岸林再生を目指した取組について、紹介します。



### ●なぜ、後継樹が必要なのか

奇跡の一本松は、名勝「高田松原」の中でも、樹高28m、胸高直径87cm、樹齢200年以上と、周囲の松林から頭一つ飛び出た巨木であり、育種素材として貴重な林木遺伝資源です。また、被災前の高田松原は、樹齢70年を超す松林が広がっており、かつての姿を取り戻すためには、長い年月をかけ、造り育てていくこととなり、海岸林再生活動を支えるシンボルとなる後継樹が必要とされました。

このような中、4月22日、日本造園建設業協会や日本緑化センターを中心に、奇跡の一本松を守るための活動が本格的に始まり、現場では、樹勢診断に使った枝でつぎ木を行い、後継樹育成に取り組むこととなりました。

当初、4月下旬では、つぎ木の適期を過ぎているので、無理せずに冬まで待つべきとの意見もありました。これは、つぎ木に使う穂木は、切断によるダメージを少なくするため、木が休眠している冬期間に行われ、また、つぎ木も、台木が休眠から覚め、活動を始める春先、遅くとも4月上旬までに行われるからです。

また、奇跡の一本松は、樹齢200年以上の老木で、海岸の

風の強い場所に成育しているため、花芽が多く、枝の成長が良くないため、更につぎ木は難しいと考えられたためです。

このため、一本でも成功するためには、どうすれば良いかと考え、①穂木を真水で洗い、葉に付着した塩分を取り除く ②穂木が弱らないように、採取と同じ日につぎ木を行う ③採取した枝からできるだけ多くの穂木を採るなどの工夫を行いました。

### ●ツギキ四兄弟の誕生

つぎ木開始から約50日後の6月13日、つぎ木の活着状況を調査したところ、4本の芽が伸び始めていることを確認しました。この4本のつぎ木苗は、漫画家のやなせたかし氏に「ツギキ四兄弟（ノビル、タエル、イノチ、ツナグ）」と命名して頂き、平成25年春頃の里帰りを目指した育苗が始まりました。

四兄弟は、老木の枝のため、芽の伸びが遅いことから、施肥や水やりの管理をこまめにやった結果、9月頃から冬芽が充実しはじめ、10月上旬には、苗高約15cmと順調に成育しています。

今回の増殖に当たっては、増殖ミスや目的外の流通を防止するため、林木育種センターで、DNA解析を行い、遺伝子レベルでのデータの収集・管理による信頼性の確保を図っています。

以上のように、つぎ木が困難と言われる時期での取組でしたが、これまで培ってきた育苗技術の活用やツリークライマーや奇跡の一本松を守る皆さんの力で、貴重な遺伝資源の保存と復興のシンボルである「奇跡の一本松」の後継樹育成に協力することができました。今後は、松くい虫・塩害に強い高田松原の再生を目指し、抵抗性マツの開発・普及を進めていきます。

最後に、ツギキ四兄弟が冬眠から覚めた頃、新たな奇跡をお知らせできるかもしれませんので、ご期待下さい。





# 「国際森林年」 記念植樹活動を実施

～秋晴れの中ボランティア参加者が広葉樹を植樹～

—— 山形森林管理署

10月20日(木)、山形市山寺の国有林において、一般公募による参加者23名(財)日本森林林業振興会秋田支部5名、当署職員11名の合計39名により、「国際森林年」を記念した植樹活動を実施しました。

当箇所は、山形市山寺から仙台市太白区秋保町を結ぶ林道「二口線」沿いで、平成19年9月の台風9号により山腹崩壊が発生し、山形署では治山工事により被災した森林の復旧に努めてきました。この復旧の取り組みの一部として、国際森林年の理念である「持続可能な森林の管理と利用」について、広く国民の理解と認識を高めていただく機会とすべく、「国際森林年」を記念したボランティアによる植生回復のための植樹活動を企画したものです。

現地はスギの造林地でしたが、土石流により大小の転石が多数混じり、整地はしたものの土壌条件が悪いため、客土、固形肥料、バーク堆肥も準備して植え付けることとしました。開催にあたっては、(財)日本森林林業振興会秋田支部との共催とさせてい

ただき、苗木や客土等の物資のご協力をいただきました。

当日は天気にも恵まれ、0・14haにコナラ100本、ケヤキ100本の計200本の苗木を植樹しました。開会にあたり、当署崎野署長から

国際森林年についての説明と「当箇所は山寺と仙台を結ぶ林道であり、このあたりを通る際には植樹した場所を見てもらい、今回の活動の意義を感じていただきたい」との挨拶がありました。また、参加者からは、植樹活動で汗を流す喜びと「3〜4年経つてまた来てみて、苗木が根付いて山になっている様子を見てみたい」など



参加者による植樹の様子

の話が聞けました。参加者はみなさん心を込めて丁寧に植え付けており、苗木の生長を楽しみにしているようで、今は約80cmの苗木ですが、成長とともにこれから毎年、紅葉が楽しめることでしょう。

また、この活動内容は、「山形放送」及び「さくらんぼテレビ」により、当夕方のニュース番組で紹介され、国際森林年と国有林のPRにつなぐことができました。これからも一般の方々に、当箇所の保育作業も含め森林の手入れ等を通して、森林、林業の重要性を認識していただく機会を作っていきたいと考えています。



植樹後に記念撮影



みどりの東北

森林ボランティア巡視員と  
清掃登山

津軽森林管理署金木支署

10月6日(木)金木支署管内で森林ボランティアの皆様は協力を頂き、旧中里町の尾別林道側から登る滝の沢ルートから袴腰山山頂を目指し(約1時間半)、ゴミ拾いをしながら体力増進と保健休養を兼ねて清掃登山を実施しました。

前日の天気予報は曇のち晴れ！しかし昨夜からの強い雨は当日の朝でも止むことなく、参加予定者11人(ボランティア巡視員)の中からも当日の朝になりキャンセルされる会員も出るほどの天候でしたが、強者



清掃登山中の様子

揃いであるボランティア巡視員の皆さんは予定通り？出発することになりました。

車中での会話は一向に天気の話



各地からの  
便り

は出ないままに車は進み、ついに雨の中を走り続け登山口まで到着！私は恐る恐る悪天候ですので引き返しましようか？と言いかけたところ、全員がカッパに着替え準備万端の笑顔で待っていましたので、自然と出発することとなったため、私は気持ちを入れ替えて登山することとしました。すると不思議なことに雨が上がり、全員無事に登頂できました。さすがに雨上がりの山頂は雲の中で、目の前は真っ白で風も強く、景色を愉しむことは出来ないままの記念撮影となりましたが、山頂付近での昼食後に下山したところ、雲が晴れ、津軽平野に浮かぶ十三湖と岩木山を少しだけ観ることが出来ました。

登山客のマナーも良いこともあり、

ゴミは少なく無事終了しました。山頂での絶景を観られなかったことだけが悔やまれますが、来年も楽しみだという声を聞きましたので、清掃の意味合いは薄かったのですが登山は成功したものと思っております。

去る9月29日(木)、むつ市大畑町の国有林内にある黒森山に於いて、一般市民を対象に国有林見学会を開催しました。この見学会は、国有林についての理解とイメージアップを図ることを目的に毎年開催しており、今年も青森市内の方を含む28名の

国有林見学会  
「秋の黒森山登山」を開催  
下北森林管理署



参加がありました。

黒森山は標高420mで、むつ市との間で「遊々の森」協定を締結しているエリアにあります。当日は管理している「下北自然の家」のスタッフに、登山の先導と案内をしていただきました。

ここ数年は悪天候に祟られてきた見学会ですが、今年は好天に恵まれ、参加者の皆さんは軽快な足取りで

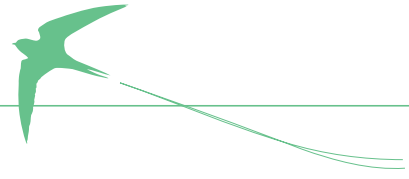


登山の様子

山を登り始めました。しかし途中から急傾斜が続くにつれ段々足取りが重くなり、後半はみな汗だくになっていましたが、小まめに休憩をとりながら約1時間半をかけて全員無事に頂上までたどり着きました。

頂上では疲労困憊といった様子の方もいましたが、展望台から大畑の町並を一望し、達成感と満足感に浸っている様子でした。

下山後は、「下北自然の家」で昼



食をとりながら「遊々の森」制度や「国際森林年」などについて説明を行い、その後、バスで大畑のヒバ施業実験林へ向かいました。

実験林では、長年管理に携わってきた柴田円治さんからの説明を受けながら、施業区の更新状況や無施業区との林相の違いなどを観察



実験林の観察

しました。初めてヒバ林の中に入ったという方も多く、みな興味津々でメモをとったり柴田さんに質問したりで、帰りの予定時刻をオーバーしてしまっただけでした。

自然環境に対する国民の意識の高まりと共に、森林への期待は年々増大しているところですが、国有林に対する認識は必ずしも高くない状況であり、今後もこのような機会を通じて国有林のPRに努めていきたいと考えているところです。

### 民国連携による 間伐現地検討会の取組

三陸北部森林管理署



当署では、民国連携による森林整備事業を推進すること、依然として後を絶たない林業における労働災害の未然防止を図ることを目的とし、8月26日(金)に沿岸広域振興局、宮古地方森林組合との共催により、間伐現地検討会を開催しました。列状間伐を実行している宮古市区界の国有林内において市町村担当者、林業関係者など約100名が参加しました。

お盆明けからの長雨のためフォワードによる運材は実施できませんでしたが、当地域の民有林において列状間伐の実施が少ないということで、民有林部局から、伐採率の決定方法、効率的な伐採列の取り方



ウインチ付プロセッサによる集造材作業

と搬出方法、猛禽類への影響等についての質問や事業実行者からの報告など、効率的・安全な列状間伐の実施について活発な意見が出さ



情報交換と安全指導

れました。その後、場所を公民館に移し、情報交換と宮古労働基準監督署の安全専門官による安全指導がありました。

当署はこれまでも民有部局と年に数回、情報交換を行ってききましたが、今回のような地域の林業関係者が一同に会するものは初めての取り組みでした。

今後、施業箇所での団地化・共同化等の民国連携の礎になるものと確信し、当地域の更なる林業の振興につながるよう取り組んでいく考えです。

### 大量不法投棄 ゴミ撤去を実施

秋田森林管理署



仙北郡美郷町内の県道花巻大曲線沿い黒森峠付近国有林内で、大量の不法投棄廃棄物(廃タイヤ(約100本)、可燃ゴミ(約2t)、不燃ゴミ(約3t))を撤去するため、10月14日(金)に大仙保健所、横手保健所、美郷町役場、美郷町住民、横手市役所、秋田県産業廃棄物協会、当署の合同で撤去作業を実施。



不法投棄の状況

廃棄物は県道擁壁下6mの急斜面に投棄されており、撤去作業は、人海戦術で廃棄物をコンテナバッグに入れてユニックで吊り上げ回収し、トラックで各処理施設に搬送しました。50m以上も下方へ散乱している廃タイヤなどは、日頃の山登りを生かし当署森林事務所職員が率先して回収し、参加者全員が汗水流しながら全てのゴミを撤去しました。不法な廃棄物投棄は後を絶ちませんが、これからもマナー啓発、巡視に



# みどりの東北

努め、関係機関と連携・協力して不法投棄防止活動を行ってまいります。

緑の山歩塾第2回及び第3回の開催  
(森林ふれあい推進事業)  
指導普及課

●第2回緑の山歩塾「秋田の木を巡るツアー」の開催

9月2日(金)、台風12号の接近で心配された雨も幸い回避され、能代市において第2回緑の山歩塾を参加者12名により開催しました。

今回のコースは、仁鮎水沢スギ植物群落保護林↓銘木を使用した住宅の見学↓能代海岸砂防林「風の松原」見学↓「木の学校」での木工体験↓製材所の見学という、木を巡るツアーを企画。

仁鮎水沢スギ植物群落保護林では樹高58mを誇る巨木「きみまち杉」をはじめ樹高50m級の天然秋田杉



仁鮎水沢スギ植物群落保護林

林を前にして、その圧倒的な大きさ等に皆さん大変感動されていました。

「木の学校」では機械を使用する木工体験に挑戦し、スタッフに指導を受けながら様々な形の鍋敷きを製作する姿は、皆さん真剣そのものでした。  
最後に秋三銘木(有)の製材所では、普段見られない大径木の丸太や美



秋三銘木(有)を見学する様子

しい製品の数々を見せていただきました。

今回の緑の山歩塾は、少し趣向を変えて木工体験を取り入れるなど、木の良さを身近に体感してもらう参加型とし、参加者の皆さんにも大変好評でした。

●第3回緑の山歩塾「紅葉の鳥海山麓滝めぐり」の開催

10月15日(土)、山形県遊佐町に位置する二ノ滝溪谷にて、29名が参加して開催しました。

鳥海山の麓にある名瀑「二ノ滝」、

てたくさんの方が訪れる「胴腹滝」を巡るコースで、当日は雨が降ったり止んだりの中カッパを着ての散策となりました。

駐車場で開会式を行い、計画部長からの挨拶や準備体操の後、出発。前日からの雨で水嵩が増し、絶壁下に轟音を上げて落ちる二ノ滝や落差約20mの二ノ滝は大迫力で、参加者の皆さんから感嘆の声が上がっていました。

このコースは鳥海山への登山ルート「二ノ滝口コース」の一部でもあるため、険しい登り坂もあり、皆さん心地よい汗を流していました。



散策終了後、ブナ林の前で集合写真

午後には「胴腹滝」に立ち寄り、鳥海山の山腹から湧き出したミネラルバランスの優れた美味しい水を汲んだり、二つの滝からの水を飲み比べたり、鳥海山の恵みを肌で感じていただけたようでした。今後も多く

の方々に喜んでいただけるイベントを企画していきたいと思っております。

「仁別国民の森」で  
太平山登山口(旭又)周辺の  
除草及び清掃実施  
指導普及課

10月1日(土)小雨まじりの中、「三者協定活動」をアサヒビール株式会社秋田支社(24名)、仁別森林博物館ボランティア案内人会(7名)及び当局・秋田署(9名)、計40名の参加の下実施しました。

午前中の活動は、紅葉シーズンとなり登山客が増加する季節となりましたが、気持ち良く登山して頂くため、太平山登山口(旭又)の駐車場や東屋周辺の伸びた雑草を刈り払い、隠れていた空き缶などを回収しました。



雑草の刈り払いの様子

午後からは、仁別森林博物館を訪れる方々に樹木の名前を覚えて頂き



みどりの東北

この活動は、アサヒビール株式会社  
が全国的に取り組んでいるもので、「森  
林環境保全活動等」を通じ、森や水  
の大切さを身近に感じて、日々の生  
活環境と森林環境との関係について  
理解と関心を深めることを目的とし、  
協定に基づき年2回(春・秋)活動を  
実施しています。

今回で第7回目となりましたが、  
次回以降の活動も盛り上げていくこ  
とを参加者全員で確認して終了と  
なりました。



標柱の杭打ちに挑戦

森に親しんでもらえるよう、樹木名  
標柱を約70本設置した後、クヌギ  
の苗を樹木園に植樹しました。杭  
打ちは、かけやを使って行いましたが、  
慣れない道具に苦労していましたが、  
参加者が多かったようです。

ミニコラム

「へえ〜、そうなんだ!」

### カラマツ

落葉松(マツ科)

岩手北部森林管理署 技術専門官

松尾 亨

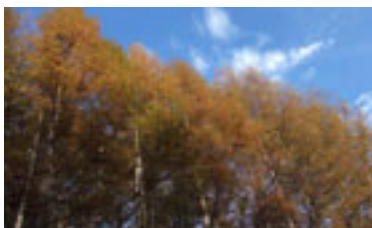
Tooru Matsuo

**私** がカラマツを好きな理由は、四季を通した林の明る  
い雰囲気かな!新緑のまばゆさ、盛夏の木陰、黄金  
色の秋、静寂の冬・・・森を歩いていると「北の国から」のテ  
ーマを口ずさんでしまいそうな、カラマツを紹介します。

樹木の特徴は、樹高は35~40m、胸高直径で1m程になり  
ます。葉は2~5cm程の針形で束生します。花は、写真のよう  
にクラゲを逆さにしたようなピンクの雌花と、薄茶色の雄花が  
開葉前に咲きます。顕微鏡で拡大した写真では雌花のひだと、  
雄花に花粉壺がみえます。受粉後球果は成長し、初夏には

小型のパイナップルに似た形に成長します。葉は10月中旬か  
ら黄葉し始め、黄金色に森全体を染めてラストは、雪のように  
落葉する針葉樹では珍しいタイプです。

カラマツ材は、かつては製材した際に「よれる・われる・やに  
が出る」等で評判が悪かったのですが、今では集成材や合板  
技術の開発で、明るい板目が好まれ、また腐朽性も強く引く手  
もあまたです。間伐時代に売れ筋に変化して良かった!時代の  
変遷とともに価値や評価も変わりますが、スパンの長い林  
業のように、人も森も「永い目」で見てもね。



黄金色のカラマツ林



盛夏のカラマツ林



カラマツ開花



顕微鏡で拡大したカラマツ雌花



顕微鏡で拡大したカラマツ雄花



カラマツ球果(パイナップル?)

# 震災危機一髪

三陸北部森林管理署久慈支署野田森林事務所

成田晃彦

Narita Akihiko

とてつもない大きな破壊力で多くの犠牲者を出した「3月11日」の平成の大津波。幸運にも玄関の上がり口まで海水が来ましたが、辛うじて被災を免れた森林事務所です。事務所前や車庫には悪臭を放つヘドロが数cm堆積し、車のタイヤ・がれき等が散乱し、正に危機一髪の状態でした。残念なことに作業班で一名の方が、家屋流失の被災をしました。

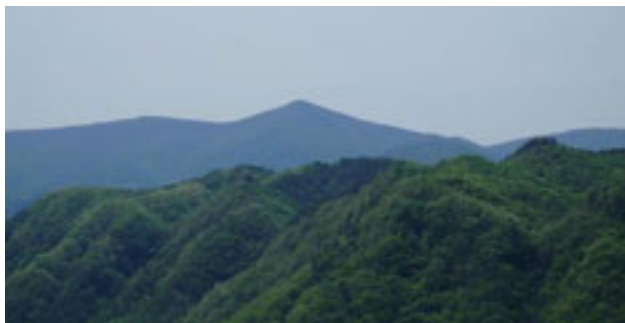
改めて、被災者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

当森林事務所は、久慈市から国道45号線を南に約12km離れた野田村の中心地にあり、北は事務所から約50km離れた青森県境で、ツツジの群生地で有名な階上岳の裾野から、東に陸中海岸国立公園を有する三陸の海岸線と西に久慈市の最高峰遠島山の麓を含んだ広範囲に国有林が所在する区域です。このようなことから、飛び地や孕在地が多く、境界総延長約300kmと境界管理の比率が非常に多い事も特色の一つです。

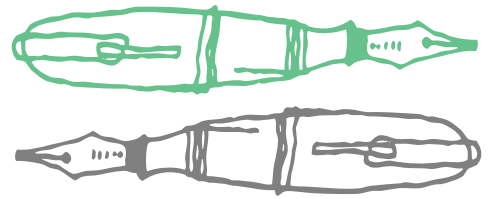
林業で久慈と言えば「南部アカマツ」です。

アカマツ林が松食い虫被害で減少する中、久慈地方では、市町村、林業関係機関及び団体による「南部アカマツ振興センター」の設立や久慈地方森林組合の「南部琥珀松」としてのブランド化など将来的に「南部アカマツの里」として、地域林業の振興に向け取り組みを行っているところです。

そのような中、管内には、久慈市を代表する侍浜松植物群落保護林7.21haが設定されています。南部アカマツの系統をくみ形質優良なため、「侍浜松」として特に有名で、特別母樹林でもあります。将来このすばらしい森が、林業発展の



1,262mの標高を誇る、久慈市の最高峰「遠島山」



森林官からの手紙

指針となればと思い管理しています。

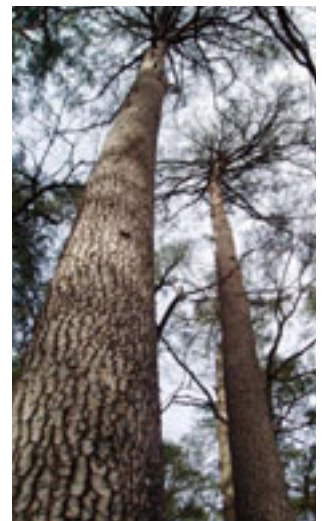
さらに、地域と密着した地域振興と深い結びつきも特色のひとつです。

当管内に薪炭共用林組合が13組合あり、現在でも10薪炭組合に薪材が供給されています。さらには、分収林が約500ha設定されています。植栽樹種は主にアカマツ・コナラです。コナラはほだ木用として、特に地域振興と深い関わりを持って貢献しています。

他方、太平洋に面した海岸線の管理ですが、当地区は特に優れた景観を有することから、「陸中海岸国立公園」に指定されているほか、魚付き保安林が約142haとなっています。まさに山村から漁村まで、地域生活と深い関わりを持った国有林です。

特に海岸線は崩壊地が多く、長きにわたり治山工事が行われ、漁港や集落の保全など、地域の安全・安心に大きな役割を果たしています。

このように、歴史的にも地域と国有林は深い関わりを持って現在に至っています。今後とも諸先輩の功績を参考にして、地域振興に貢献した国有林となるよう、地元密着型の仕事を目指したいと思います。



侍浜松植物群落保護林  
(侍浜特別母樹林)



三崎山国有林(陸中三陸海岸国立公園)魚付き保安林

由利森林管理署

〒015-0885 秋田県由利本荘市水林439

tel.050-3160-5840/0184-22-1076 fax.0184-22-2274

【我が署の名所⑧】  
秋田県にかほ市象潟町  
―獅子ヶ鼻湿原―

# 「獅子ヶ鼻湿原の神秘」



## 獅

獅子ヶ鼻湿原は、秋田県にかほ市の鳥海山の北西山麓に位置し、レクリエーションの森「鳥海自然休養林」に設定されています。獅子ヶ鼻湿原帯は独特の形態をした奇形ブナ林、大小の湧水池、湿地などがあつて自然庭園の趣があります。特に大きなブナの巨木「あがりこ大王」、氷河期からの生きた化石「ムカシブナ」、清らかで豊富な湧水群の「獅子ヶ鼻湿原」、世界的に珍しいコケの群落「鳥海マリモ」など、遊歩道でこれらを見ることが出来ます。希少植物も多く自然環境に恵まれ、自然探勝など森林レクリエーションの場として利用されています。

獅子ヶ鼻湿原は、秋田県にかほ市の鳥海山100選に2000年4月選ばれました。幹回り日本一太い珍しい奇形ブナとして全国に知られています。珍しい形から「中島台レクリエーションの森」の森の主として呼ばれ、幹回りが7.62mあり樹齢は推定300年以上、樹高は25mと奇形ブナとしては日本一の大木。幹が途中から5本程度枝分かれしているのが特徴。

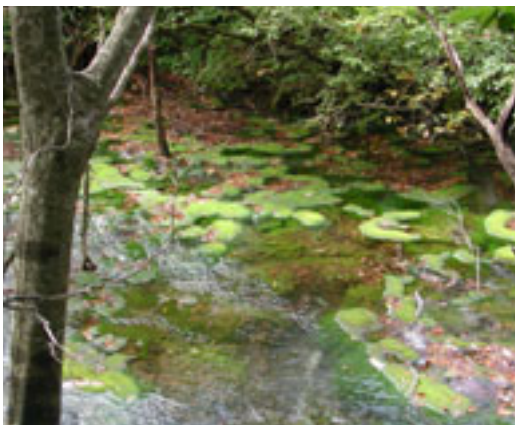
「鳥海マリモ」が生育できる条件として、鳥海山系のブナ原生林から流れる多量の流水と、水温が湧水のため7℃と非常に低く、年間を通してほとんど変化がなく、しかも強酸性(pHは4〜5前後)という水の特徴が、世界でも珍しいコケの生育を可能にしています。

1、あがりこ大王(森の巨樹・巨木100選)  
全国の巨樹・巨木を厳選した「森の巨人たち」の場として利用されています。

2、鳥海マリモ  
世界でも珍しいコケの宝庫「鳥海マリモ」は、湧き水の周辺や川底に球状・クッション状に密生しており、50年〜100年の歳月をかけて生育するとされています。



森の主らしい威厳をたたえる「あがりこ大王」



幻想的な「鳥海マリモ」



●東北森林管理局のホームページをご覧ください

[www.rinya.maff.go.jp/tohoku/](http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/)